

伐木等作業緊急通報カードの使い方
～迅速・的確な救助活動実現の為に～

令和3年2月西牟婁振興局林務課

緊急時の通報内容をあらかじめカードに記入し、現地作業班全員がカード情報を共有しましょう。本カードの内容は、田辺西牟婁地区消防指令センターも把握していますので、迅速な119番通報が可能となります。カードの利用にあたっては、下記の説明及びカード記載例を参考にして下さい。

<現場に入る前に>

1. 現場名、事業体名を記入します。
2. 現場の携帯電話通話可能場所を記入します。

作業現場が携帯電話圏外の場合は、もっとも近い通話可能場所を確認し記入して下さい。

<注意点>

携帯電話会社により通話可能エリアが異なる場合がありますので、注意が必要です。

緊急時、消防からの質問に答えられる方(事故現場にいる方)が119通報して下さい。

緊急連絡網を作る場合は「事故現場 119番通報」

×「事故現場 事務所 119番通報」事務所経由で通報すれば救助が遅れてしまいます。

緊急時、携帯電話のGPS機能は「ON」にして下さい。

・消防に自動的に通報者の位置情報が伝わります(場所によりGPSの精度が悪い場合もあります)

・通報場所と事故現場が異なる場合は、その旨を119に伝えましょう。

3. 現場の緯度・経度をGPSで測定し記入します。

・お使いのGPS又はGPS機能付きカメラで緯度、経度を確認して下さい。

なお、普段GPSをお使いでない場合は、携帯電話で緯度、経度を確認することも可能です。

・Android端末であれば、Googleマップ上で現場位置を長押しすれば座標が表示されます。

・iPhone端末であれば、標準で入っているコンパスアプリに現在座標が表示されます。

4. 救急車と案内人の合流場所をあらかじめ決めて記入します。

・合流場所は、救急車が一般的に使用するゼンリン住宅地図を基に説明します。

・救急車は砂利悪路走行が不可なので、県道、町道などのわかりやすい場所を合流場所を選びます。

・救急車の道案内は、軽トラがベストです。2台あれば、機材や傷病者搬送にも使えますので、作業班の移動方法も一度見直してみましょう。

5. 傷病者の搬送の方法を記入します。

・緊急時、どのように傷病者を搬送するのか、あらかじめ計画します。

・災害時におけるヘリコプター発着予定地一覧表から、最寄りの予定地を確認しておきます。

・さらに、広場等傷病者の吊り上げが可能と考えられるスペースが近くにないか確認しておきましょう。ただし、ヘリコプターは、現場状況、気象条件及び時間帯等によって、飛行できない事もあります。

6. 緊急時に連絡を取り状況をお伝えし、持病等について聞ける方を記入しておきましょう。

<緊急時の注意点>

衛星電話を使用する場合は、田辺西牟婁地区消防指令センターの外線番号に電話し、救急車の要請を行いましょう。

傷病者の大出血に対する止血の遅れは命に直結するので、感染防止を実施し、清潔なタオル等で行います。応急セットは、必ず現場に携行しましょう。

ヘリコプターによる救助活動をスムーズにするために、蛍光色等の上空から発見しやすい服装を着装し、ヘリコプターの音が聞こえたら、フラッシュライト、鏡、白色タオルや発煙筒を振って傷病者の位置をヘリコプターに知らせましょう。